



体験教育

編集／体験教育編集委員会
 発行／学校法人 明星学苑
 東京都府中市栄町一丁目
 〇四二二三八五二二
 印刷／信濃印刷株式会社

幼稚園		体験を通して	2
年少組		2	
年中組		3	
年長組		4	
小学校			
一年生入学式・おめでとう一年生		5	
二年生くぬぎの時間		5	
三年生みんなくわくわく♪ 新たな学習		6	
四年生GIGAスクール構想実現への第歩		6	
五年生家庭科の授業・幼小連携活動		7	
六年生道徳・算数		7	
算数科AA授業の成果・明星中高との連携		8	
中学・高等学校			
経 験			
先狭山丘陵ディスプレイカーブアウト	中学一年一組 林 百華	9	
明星大学デザイン学部西本教授のプレゼン講座を聞いて	中学三年三組 大谷華奈	9	
オリジナルデザインマイボトル	高校一年一組 郡司真帆	9	
小学校・高校合同企画 武蔵国分寺古代米(赤米)プロジェクト	高校一年十三組 秦 愛英	9	
小学校・高校合同企画 古代米(赤米)伝承プロジェクト	小学校教諭 夏莉崇嗣	10	
コロナ禍の中で…	小学校教諭 夏莉崇嗣	10	
三度目の正直	高校三年本科 学年主任 渡辺 裕	10	
コロナ禍における学校生活	高校三年担任 連淳淳郎	11	
男子ハンドボール部「関東大会の経験」	高校三年〇組 水越望杏	11	
女子ハンドボール部「関東大会を終えて」	高校三年四組 瀧川忠大	12	
陸上部「関東大会」	高校三年四組 小笹ひなた	12	
泣き笑いのエピソード	高校三年四組 望月直人	12	
先輩便り	体育祭運営委員 高校三年七組 横山 開	13	
府中キャンパスを尋ねて	岡村 謙	14	

体験を通して

明星幼稚園では、質の良いたくさん遊びを通して、子どもたちに「生きる力」を育んでいきたいと考えています。お友だちや先生との触れ合いの中で、周りの人の気持ちがわかり、自分で考えて主体的に行動できるように、一人ひとりを大切にしながら保育を行っています。

これらの教育目標を実現するために、幼児期にしっかりと「あそび込む」ことが出来る環境を設定しています。

朝の挨拶から1日が始まり、朝のあつまり、みなしずか、絵本の読み聞かせ、主活動、昼食と、お友だちや先生と一緒に遊びや生活の中で、身辺自立をはじめ、挨拶などの基本的な生活習慣を身につけることと同様に、「非認知能力」と呼ばれる「生きる力」を育てることも大切になっています。

「非認知能力」は認知能力（IQや学力）と違い数値では測れない内面の力で「忍耐力」「社会性」「意欲」などを指します。

幼稚園での3年間で、自分が受け入れられているという自己肯定感を持ち、自信を持ってその後の就学に踏み出せる、そして10年後20年後の

自己実現に向けての第一歩を大切に育んでいきます。

年少組



初めての制作
素敵なこのぼりが
できました



先生のお話も上手に聞けるよ！
今日の手遊びは何かな？



感染防止のため
モニター越しで
「はじめましての会」
に参加しました！



毎月の総合絵本(個人持ち)の
シールを貼るページが
大好きな子どもたちです！



きゅうりの苗を植えました。
根っこはどんなふう
になっているのかな？



「クレヨン」を使って自分の顔を
描きました。3年後、卒園時に同じ
テーマで描き、並べて展示します。
成長が見られるのが楽しみです

個人持ちの自然図鑑を持って
園内散策に行きました！



年中組



バケツ稲の活動の第一段階として、
お米の芽出しをしました！
「おおきくな～れ！」

毎日の絵本の読み聞かせが
大好きな子どもたち
「今日のお話は何かな？」
全員集中しています



年中さんから始まる英語遊び！
イデイス先生と一緒に
「ABCの歌を歌ったよ！」

イメージを膨らませて
折り紙でピザ作り♪
「おいしそうだね！」



枝豆の苗植えをしました！
「どんな形してるの？」
「見せて見せてー！」



クラス全員で力を合わせて
“このほり”を揚げました



年長組



始業式。年長さんらしく
“みなしずか”（凝念）



毎月の総合絵本(個人持ち)は、
友だちと一緒に読んで発見したり、
作って遊んだりして楽しんでいます



学苑内の散歩では、あこがれの小学生の
授業風景を見ることができました



クリエイティブ・キューブ(磁石ブロック)では、
図面を見たり、みんなで創造することを
楽しみながら思考力を育んでいます

かぶと虫の幼虫
土から出てきたね。
どうしたのかな？



一年生

★入学式★

二〇二二年四月九日、明星小学校に一〇四つの笑顔の花が咲きました。コロナ禍でいろいろと制限がある中でしたが、入学式を挙行了しました。



入学式直前、多少不安げな表情を見せていた子どもたちですが、式が終わり、各教室に入ると担任の先生のにこやかな表情に、だんだんと緊張がほぐれてきたようでした。

新たな一歩を踏み出した一年生です。たくさんのお友達を作り学び合っ
てほしいと思います。
★おめでとう一年生★
集会委員会の児童が一年生を迎えるための会を開いてくれました。クイズにゲーム、そして一年生教室を回りインタビューしたものを、各教室にオンラインでつなげての開催となりました。

上級生が作ってくれたメダルをも
らって子どもたちは大喜びでした。
全校児童からも祝福され、晴れて明星小学校の一員となりました。これからの成長が楽しみです。
(文責 一年生)



二年生

くぬぎの時間

くぬぎの時間では、体験を重視して、様々な活動にチャレンジしていきます。

感染予防のため、一年生と例年通りの交流活動ができない中、学校紹介ムービーを作成することになりました。各クラス、四、五人の班を作って、紹介する教科、先生、施設などを分担。撮影の計画を立てて、iPadを持って走り回りました。



納得いくまで何度も撮り直す粘り強い姿勢、役割分担し、協力して一つの作品を作り上げる協働の態度が、どのクラスでも見られました。動画を組み合わせたり、文字や音楽を入れたり、編集にもチャレンジし、一年生にプレゼントすることができました。

一方で、学校園での野菜作りにも挑戦。今年度の夏野菜は、トウモロ



コシ、ミニトマト、キユウリを育てます。トウモロコシは、発芽の様子も観察しました。屋外で育て

た種と、教室内で育てた種の成長の違いに着目。理由を考察した結果、子どもたちは、育ち方の違いの差は、温度や日光の当たり方と関係があるのではないかと結論付けました。

トマトとキユウリは苗の観察から「キユウリの葉や茎に生えている毛は何のため?」「トマトの苗はもうトマトの匂いがする!」疑問や発見の声が上がりました。

日差しを受け、どんな育つことを願い、苗を植えました。毎朝、ペットボトルじょうろを携えて水をあげに、学校の畑に通っています。



(文責 二年生)

三年生

みんなわくわく♪ 新たな学習

毛筆

初めての書写では、道具の名前や使い方、筆の持ち方、半紙の表裏などを確認してから、やっと「一」を書きました。墨を出すとき、「こわい。」

と言いながら、少しだけ出す子が多く、筆についたらすぐに墨が無くなってしまうました。

子どもたちは、そんな小さな体験を積み重ねながら色々な感覚が育っていきます。それが当たり前となり、「自信」へと変わっていきます。「初めて」から「自信」へ、今後の成長が楽しみです。



社会

三年生から新しく学習する社会では、学校のまわりに見えるものを調べに行きました。



「あの建物は何だろう。」
 「屋上から富士山が見えた!」
 「屋上の方が遠くまで見える。」
 というように、新たな発見や視点の違いによって分かったことをまとめられました。これからも視野を広げ、「なぜ」「どうして」を見つけていきます。

理科

子どもたちが二年生のころから楽しみにしていた理科の学習がはじまりました。最初に、ヒマワリの種をじっくり観察し、スケッチをしました。「裏と表でしま模様が違う。」



新しい発見をし、喜び子どもたちの声がたくさん聞かれました。
 じっくり観察した後、ヒマワリの種を植える畑へ。
 「どのくらい大きくなるのかな。」
 この畑がきれいなヒマワリ畑になるころ、みんなはどのくらい大きくなるのでしょうか。ヒマワリの成長とともに、子どもたち自身の成長も見守っていきます。(文責 三年生)

四年生

GIGAスクール構想 実現への第一歩

一人一台の端末と高速通信環境の整備をベースとして、Society 5.0の時代を生きる子どもたちのために、「個別最適化され、創造性を育む教育」を実現させる施策である「GIGAスクール構想」

明星小学校でも、保護者の方のご理解・ご協力を得、今年度より四年生・五年生の児童が、一人一台のタブレット端末を持つての授業がスタートしました。



4・5年生同時に、「ICTタイム」で使い方や約束を確認!

明星小学校では、三年生・四年生は「コンピューターの時間」が設定されており、iPadを使って、画像と文字で明星小学校のPRポスターを作成したり、Movieを使って動

画を制作したりしてきました。また、コロナ禍でオンラインでの授業を行ってきたので、そういう意味では、iPad(タブレット端末)の使い方には慣れてる面もあるのかもしれない。



児童は、全ての教科においてタブレット端末も持つて参加することになります。今までの効果も期待できます。今年度より始まったことですので、今年の実施がモデルケースとなっていくと思います。



Keynoteを使って全員画面編集に挑戦!

子どもたちの学びの幅を広げるためにも、より効果的な活用方法を模索しながら進めていきたいと思えます。

(文責 四年生)

五年生

ゆで卵にチャレンジ!

〜家庭科の授業の取り組み〜

五年生になり、家庭科の授業が始まりました。子どもたちが一番楽しみにしていた調理の授業は「ゆで卵の作り方」でした。今回は、児童による実習、試食はできませんでしたが、家でチャレンジしてくれた作品をご紹介します。



保護者の方からのコメント

- ◎学校で習ったことを、思い出しながら作っていました。
- ◎みんなの好みを聞いて、作ってくれました。
- ◎殻がむきやすくなるように、黄身が真ん中にくるように、工夫して作っていました。



「みんなの目」

〜幼小連携活動〜

五月には年長さんとの「にこにこの日」を予定していました。Zoomでの交流も分散登校延長でかなわない中、年長さんにプレゼントを作ったパズルを試行錯誤しながら作りました。絵は年長さんが自由にぬれるようにし、遊んでもらいました。また、お手紙も書きました。平仮名の大きな字で気持ちが伝わるメッセージを書きました。これらのプレゼントを紹介する動画を、各クラスの代表委員が撮ってくれました。パズルと手紙と動画を年長さんに届けたら、年長さんからもお礼のメッセージが届きました。今は直接触れ合って遊ぶことは難しいですが、お互いに心と心の交流ができました。次回は一緒に遊べることを楽しみにしている五年生です。(文責 五年生)



六年生

いよいよ学校のリーダーとなり、身の引き締まる思いの六年生。自分たちのことだけでなく、学校全体のことを考えていこうと、張り切っています。

道徳・くぬぎの時間

「SDGs」を学ぶ

六年生では、ここ数年続けてパナソニック主催の動画制作コンテストに参加しています。このコンテストでは、SDGsをテーマにした動画を制作し、出品することとなっています。今年の六年生は、各クラス一作品ずつエントリーしていくことになりました。



早速、道徳の時間や、オンラインで行っている朝の会で、少しずつSDGsについて探究する時間を設けて関心を深めています。

算数

「対称な図形」作品展

六年生の算数では、「対称な図形」という学習を通して、「線対称」「点对称」という概念を学びます。そして、学んだことを生かし、「対称な図形」作品を作成しました。

身の回りにある対称な図形をヒントに、ハサミや定規を使いながら、作品を完成させることができました。



(文責 六年生)

算 数 科

「AA授業の成果」

「算数好きの子どもを育てる」を合言葉に、本校では算数の授業に取り組んでいます。算数の授業では、教科書の内容だけではなく、遊びを通して算数の力をつける活動を行っています。それが、本校が独自で行っている取り組み「AA（アリスメティック・アクティビティ）授業」です。

この「AA授業」ですが、昨年度は分散登校等、感染症対策の関係でなかなか行うことができませんでした。そのため、本校の二年生は入学して、初めてこの「AA授業」を行います。

そんな二年生は、パターンブロックを配布した瞬間、興味津々。「いろいろな形を作ってみよう」と教員が投げかけた時には「先生、○○の



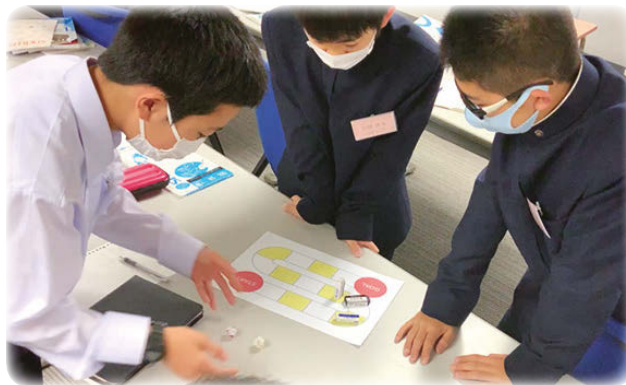
形ができた。」と、すでに動き出していました。写真のように自分のお気に入りの形を作れたら、紙に写して色を塗り、自分だけのオリジナルの作品を仕上げます。作成したこの作品は次の時間に、友だちへの問題になります。どんなブロックを使ってこの形を作ることができたのか考え、子ども同士で交流します。



このようにAA授業の成果は、なんととっても子どもたちが楽しみながら、数や図形の感覚を身につけることだと思えます。そうすること、着実に算数好きが増えていくことを実感しています。これからも私たちが教員自身が算数を楽しみ、算数好きの子どもを育てることを目標に、日々の授業に取り組みます。

「明星中高との連携」

今年度は、小学校算数科の教員一名が、中学校一年生の「代数学」と「幾何学」の授業を担当しています。第三回の「代数学」の授業では、正負の数の加法を学習しました。



この写真はその授業での活動の様子です。正負の数（ -3 、 -2 、 -1 、 $+1$ 、 $+2$ 、 $+3$ の6つ）が書かれたサイコロを二つ振り、その合計だけ移動するすごろくを行いました。生徒達はゴールを目指して何度もサイコロを振り、単に練習問題を解くよりも素早く計算をすることができました。

名前は「数学」に変わっても、体験的に学ぶ機会も大切にしていきます。「中一ギャップ」と言われるように小学校との違いが子どもたちにとって負担が大きいと言われていますが、明星小では、今後も、中高との連携を図りながら、子どもたちの学力アップと、なだらかな進学を支援していきます。（文責 算数科）

明星算数講座



1年に数回、明星小学校を会場として、教員向けに算数講座を実施しています。授業研究会や講演会を通して、教員の授業力向上の機会としています。



経 験

中学一年一組 林 百華



私のグループは、大國魂神社と多磨霊園に行った。デイスカバリーウォーク初日、大國魂神社に行ってみると、底のないひしゃくがたくさんあって何で底がないんだろうと思っただ。また、絵馬もあって普通、絵馬はつるすのかと思っていたから、つるさずに柵においてあり、不思議だなと疑問をもった。

その後、時間が余ったので府中駅の周辺を散策した。何も調べていなかったからここに特産品の直売所があったんだと、色々な発見ができたし、グループの人も仲良くなれたので良かった。

そして三日目、多磨霊園に行った。多磨霊園の中を歩いていると、大きい亀をつれたおじさんに出会った。今まで、大きい亀を見たことがなかったので驚いた。おじさんに亀のことも触らせてもらった。こうらは、硬くてゴツゴツしていた。貴重な体験ができて、勉強になった。

これからまとめに入るけれど見ていて楽しくなるようなマップを作りた。

また、疑問に思ったことについて考えてみようと思う。

狭山丘陵ディスカバリーウォーク

中学三年三組 大谷 華奈

自然保護や環境問題について理解を深める、グループ学習を通じて協調性や判断力を養う、本に興味を持ち「COLJAPANFOREST」への意識を高める。私たちの学年はこれらの三つを実行するために一学期に「狭山丘陵ディスカバリーウォーク」というテーマで狭山丘陵の「トトロの森」ところざわさくらタウンにある「角川武蔵野ミュージアム」に行きました。事前準備として、私たち学年推進委員会を中心に各クラスで班を決め、トトロの森散策のコース決めを行いました。他にもコロナウィルス感染症対策をしっかりと徹底し、周りの方々に迷惑がからないように「集合場所まで」「移動中」「班行動中」「角川武蔵野ミュージアム」「解散後」の注意事項をそれぞれ決めました。

狭山丘陵は、ジブリのアニメ映画『となりのトトロ』のモデルとされていて、狭山丘陵全域は「トトロの森」と呼ばれ、環境保全活動に積極的に取り組んでいる場所です。ここでは、里山の美しい景色、普段見られない動植物を見られたことが印象に残っています。狭山丘陵には、予想を遥かに上回る敷地の広さと、自然の豊かさがありました。狭山丘陵近辺の家では、トトロの置物があったり、トトロの形をした植物があり、「トトロの森」が愛されていることがわかりました。

角川武蔵野ミュージアムは、隈研吾さんによって設計され、多くの花崗岩が使われている外観に目を惹か

れました。ミュージアム内の「本棚劇場」では、高さ約8メートルでどこを見ても天井までびっしり本が並べられていました。ミュージアム内の印象に残ったことは、本棚劇場で投影される「プロジェクトンマップ」でした。「本と遊ぶ、本と交わる」というコンセプトで上映され、読書することが学びの一つで、読書を大切にしている私たちにとって、とても興味深いものになりました。他のエリアにも本がたくさん置いてあり、本に興味を持つために良い機会だったと思います。

コロナ禍で友達と外出したり、楽しく笑ったり、話したりすることができない日常ですが、感染症に気がつけながら過ごした一日はSDGsを意識し、クラスの親睦を深めることもでき、充実した一日となりました。

明星大学デザイン学部西本教授のプレゼン講座を聞いて

高校一年一組 郡司 真帆

今回初めて大学の先生の話を聞いてみて、より深いものを感じることが出来ました。まず今回の講演を聞くにあたって、先生が作られた作品をみたことがあったので、とても興味がありました。話を聞いてみて、とても面白く聞いていて楽しい講演でした。私が一番興味を持ったのは、プレゼンで使うスライドの文字数の話でした。私は画面を作る際に伝えたい事をたくさん書いてしまう癖があったので次作るときは改善しようと思えました。また、先生が作っていたスライドでは色を3色しか使っていないことに驚きました。私はス

オリジナルデザインマイボトル

高校一年十三組 秦 愛英

ライドを作る際にあまり色を使いません。しかし黒を基準とした3色で作れることにとても感動しました。次にCREC法という話が面白かったです。普段のスピーチなどでもとても生かされると感じました。特に最初と最後のCは片方しか話してないことが多かったので、今回の講演を機に、これから気を付けて話そうです。そして、今回の講演で私が一番心に残ったことは「プレゼンで本当に大切なことは、相手を感動させ行動させること」という言葉です。この言葉を聞いて、人を感動させるだけではダメなんだということを感じました。誰かの心と体を動かしていることが出来ました。これからは相手の立場になって考えてから、発言、行動できるように心がけていきたいと思いました。

今回、私は「マイボトルを持つことが当たり前のライフスタイルを広める」という環境保全活動に興味を持ち、オリジナルマイボトルコンテストに応募しました。このデザインは、明星学苑の幼稚園生から高校生までが一丸となってマイボトルを持ち、プラスチック消費の削減に取り組んでいる姿をイメージして描きました。

私は年齢



に関係なく、誰もがマイボトルを持ち、環境保全活動に取り組んでもらいたいという思いから明星の制服を着たシルエットをデザインに取り入れました。また、明星学苑のイメージとして使われる星もヒトデとして描きました。現在、多くのプラスチックごみが川や海に捨てられ、海洋プラスチックごみとなり環境汚染を起し、生態系に悪い影響をもたらしてしまうので、私たちがマイボトルを使う習慣を持ち、少しでもプラスチックごみを減らす努力を心がけて、いつまでも綺麗な海を保つことが今後の最大の課題となっています。以上のことから、多くの人がマイボトルを持つことで、このデザインのように海洋生物や人々が健康で、なおかつ環境にも配慮し、多くの生物とより良い関係を保てる世界になって欲しいと考え、制作しました。このデザインを通して、一人一人が環境問題に関して身近にできることはないかと自身の生活を振り返り、何か一つでも多くのアクションを起こすきっかけ作りになれば幸いです。

**小学校・高校合同企画
武蔵国分寺古代米(赤米)プロジェクト**

高校教諭 八幡 幸司

縄文時代に日本に最初に伝わった稲と考えられている古代米。江戸時代以降に品種改良がさかんになるまで、古代米は各地で栽培されていました。しかし、味が劣り、倒れやすくなるなどの理由で遠ざけられるようになり、明治時代に品種改良が進むようになり、姿を消していき、在来品種の赤米は幻の存在になって



種まき



日課の水やり

いきましました。そんな中、一九九七年、国分寺市東恋ヶ窪で、原種(品種改良されていられない種)とみられる赤米(あかごめ)の種籾が奇跡的に見つかり、その種もみを二〇一八年より育てているプロジェクトがあります。

そのプロジェクトに明星小学校五年生とSDGsを総合的な探求で取り組んできた高校二年生の有志が取り組み始めました。

高校二年生は中高校舎三皆テラスにて、五月中旬、種まきを行いました。今後古代米を育てることで歴史を通して自然との共存について探求を深めていきます。また小学生との連携や収穫の際には古代米を使ったレシピ料理も考案中です。

**小学校・高校合同企画
古代米(赤米)伝承プロジェクト**

ゲストスピーカーによるZoom講演会

小学校教諭 夏莉 崇嗣
小学五年生は、例年くぬぎの時間



六月八日「くぬぎの時間」

と社会科学の「米づくりのさかな地域」との「カリキュラムマネジメントを活用し、田植えの活動により効果的に学習を進めています。今年度は、「古代米と現代米の比較を通して」体験を重視した学習と伝統を受け継ぐ気持ちを育む」をテーマに学習を進めることにしました。



左からゲストの金城さん・坂本さん・合地さん

第一段階として、ゲストティーチャーに国分寺赤米プロジェクトのメンバーの方々にお越しいただき、古代米についての講演会を行っていただきました。内容は、「自然農」、「赤米について」、「白米と赤米の違い」など初めて聞く内容ばかりでした。今回のプロジェクトは「武蔵国分寺」の古代米ということで、地域との連携も図りながら子どもたちにとって学びの多い活動となるように取り組んでまいります。

コロナ禍の中で...

高校三年本科 学年主任 渡辺 裕

今年度の高三本科の学年目標は『進路実現』。コロナ禍で様々な制約

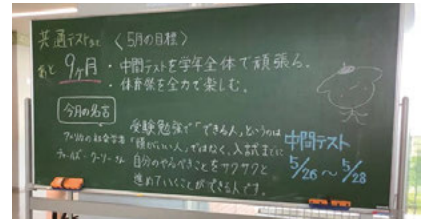
はあるものの、目標の実現のために可能なことを可能な範囲で一生懸命学校生活を送っています。コロナ禍でも前向きに取り組んでいる生徒の学校生活の様子をいくつか紹介させていただきます。

学校の配慮で様々な面で高三学年を優先していただき、緊急事態宣言下でも連日対面授業を行っています。対面で生徒とのやり取りができる授業は興味関心がわくとともに、受験に向け集中して授業を受ける事が出ています。また、中間考査も実施していただき、生徒もこれまで以上に目の色を変えて試験勉強に励んでいました。中間考査前には、密を避けながらも早朝や放課後の自学に励む生徒も見受けられ、多くの生徒のギアは確実に一段上がっています。

四月以降、教室、廊下、職員室前でガイダンスをする姿を度々見受けられます。将来の方向性、受験大学及び学部、学科の選定などについて話をしていくようで、生徒は確実に自分の将来に真剣に向き合っています。

四月二四日(土)には、コロナ感染症の感染対策を十分に取らないが、元バレーボール全日本男子代表監督、現大阪商業大学教授の植田辰哉さんを招いての講演会を開きました。「目標の大切さ」、「目標を実現するための努力の尊さ」についてお話を聞かせていただきました。「進路実現」という目標の実現に向かって歩んでいる生徒たちは、改めて、目標の実現のために「どうあるべきか」、「何をすべきか」を考えていました。

六月十五日(火)には体育祭が行われました。当初予定していた形で



高校三年生フロアの学年掲示板

の開催は出
来ず、規模
縮小で学年
別での開催
となり、例
年とは違っ
た体育祭と
なりました
が、生徒は
やれること
を精一杯や
っています
た。体育祭
で見せてく
れた集団演技はまさに世界に一つだ
けの大輪となっていました。

このように生徒達は、コロナ禍に
おいて苦しい状況に立たされたため
「進路実現」という目標の実現のため
めに前向きに、そして一生懸命学校
生活を送っています。不安や緊張に
押しつぶされそうになる場面もあり
ますが、生徒は真剣に自分の人生を
デザインしている真つ最中です。来
年の三月までには四〇〇もの桜の花
が咲き乱れてくれることを願いつ
つ、生徒達の伴走をしています。

三度目の正直

高校三年 担任 蓮沼 淳郎

この原稿を書いている今、本科高
校三年生の研修旅行を二週間後に控
えています。本来ならば、昨年の十
二月にカナダ、オーストラリア、沖
縄の三方面に分かれて、研修旅行に
行くはずでした。それがコロナウイ
ルス感染拡大防止の観点から断念せ
ざるをえなくなりました。その代替
として、今年の三月にクラスごと、
国内十方面に分かれての実施という

計画を立てました。探究学習のため、
各クラスが訪れる県や地域に精通さ
れている方にお話を伺う機会を設け
るなど、教職員はもちろん旅行会社
など様々な方々のご協力を得て、準
備を進めてまいりました。しかし、
こちらもコロナウイルスの感染状況
が悪化している時期にあたってしま
い、断念。

ですが、何とか研修旅行を経験さ
せてやりたいということで、七月実
施の機会をいただくことができました。
密を回避するため、二クラスご
と、国内五方面に分かれてという形
での実施としました。本学年が研修
旅行の柱としている、自ら課題を発
見し、その課題の解決のためにどう
すべきかを考察する探究学習のため
に、前回と同じように現地の方にお
話を聞く機会を設けました。生徒た
ちは、研修旅行の事前学習として、
そうしたお話や調査をもとに、HR
や総合学習の時間を用いて、問いを
立てるという事前学習を重ねている
ところですが、そうした事前
学習を経て、現地でフィー
ルドワークを行い、そこで
得られた情報をもとに考察
をし、学校に戻ってきてか
ら、それらをまとめ、発表
するというのが、今回の研
修旅行における探究学習の
流れとなります。ここまで、
延期や変更を繰り返して、そ
の度に残念な思いをしなが
らも、生徒たちは研修旅行
を成功させるため、一生懸
命がんばっています。

研修旅行の度重なる延期
や変更で保護者の皆さまを



研修旅行に向けた発表

はじめ、特に生徒には迷惑をかけて
きてしまいました。ですが、生徒は
不平や不満を漏らすことなく、淡々
とそれらを受け容れてくれました。
現在の高校三年生は、体育祭や明星
祭など多くの行事を、コロナウイル
スの影響で「普通」に経験すること
ができなかったにもかかわらず、で
す。今回の研修旅行では、予定され
ていた北海道方面がコロナウイルス
の感染状況が落ち着かないために、
実施の三週間前に急遽行き先を高知
県に変更せざるを得なくなりました。
そのため、私が担当者として該
当のクラスに対して、説明を行いま
したが、説明が終わった後、きつと
悔しかっただろうに、拍手をしてく
れるということもありました。そん
な生徒たちのために、コロナウイル
スの感染対策を万全に行った上で、
社会情勢が許すのであればという条
件付きではありますが、何とか実施
し、成功させたい。そう強く思いま
す。

コロナ禍における学校生活

高校三年一〇組 水越 望杏

コロナ禍から一年が経過し様々な
生活様式が確立された中、お店が潰
れたり様々な苦労があると思います。
最近ではオリンピックができるかど
うかがトピックに上がっています。
海外からたくさんの人を入れるべき
か、感染拡大しないための措置がで
きているかなど議論されています。
学校でも同様に安全な学校生活を
送れるように、できる限りのコロナ
対策が講じられています。

私たちは毎朝検温してから学校
に登校し積極的に様々なコロナ対策
を行っています。特に一番飛沫感染
がしやすい昼食時には友達と一緒に
食事をしたい気持ちを抑えて自席で
食事をするようにしています。活動
は多くても学年単位で三密予防の観
点に忠実に取り組んでおります。

また、学校生活や学習についても
今できることを安全に実施すべく取
り組んでいます。体育祭は学年単位
での実施になり、明星祭も中止とせ
ざるを得ない状況に、私たちが悔し
さを感じていますが、それと同じく
らい判断をする先生方としても苦渋
の決断だったと思います。

そんな日常ではありませんが、今の
状況をネガティブに捉えるのではなく
学校に毎日登校できるだけで、研修
旅行に行けるだけで、「幸せ」とポ
ジティブに考えるようにしています。
私たちは私たちがなりにこの緊急
事態を理解し、日々の学校生活にお
いて着実に新しい毎日を受け入れて
います。

感染者数は、このところ減少傾向

にありますが、まだ感染が判明し、臨時休校措置を行うことになった学校なども沢山あります。減少傾向にある今だからこそ油断せず学校全体が一丸となつて、クラスター感染が起らないよう対策していきたいです。こうした状況の中でも、体育祭や研修旅行等、今後の学校行事などの取り組み方について、より一層慎重に行い、ついても楽しみたいと考えております。今後の状況によっては、止むを得ず中止になることもあるかもしれませんが、自分たちが楽しみにしている様々な行事や生活を守るためにもできることからコツコツと積み上げていけるように心がけます。現在の状況を考慮し、こんな時こそ主体的に行動し、多方面から情報を収集したり、学校から講じられているコロナ対策をしっかりと守りながら、安全を第一に考え、生活していきます。終息が見えない闘いに、時に弱気になることもありながら、「学び」を止めずにこれからも頑張っていきます。

男子ハンドボール部
「関東大会の経緯」

高校三年四組 瀧川 忠大

私たちハンドボール部は新人戦を二位という形で突破し、関東大会に出場しました。今年はコロナの状況で、なかなか練習試合や合宿ができておらず、チーム全員とは言えなくとも、チームでまとまって行動するとういう点ではいい経験になったと思います。しかし、試合の面では、課題が残る試合になりました。初戦は、チームで盛り上がり、自分たちの戦

い方やベースに持つていけたので良かったのですが、2戦目は相手のディフェンスに圧倒され、自分たちのベースに得点を与えてしまい、それが大きな敗因となりました。この試合で、私たちは勝負というものを再認識しました。顧問の小川先生も「高校生の勝負は技術ではなく、自分の気持ちだ。大抵の負けた高校生のチームは、自分たちの力を最大限に発揮できずに負ける」とおっしゃっていました。もともと自分たちに来たことはなかったのかと悔しさが残りました。

私たちは今、インターハイ予選の最中です。1、2試合目は自分たちが納得できる試合ではなかったですが、勝つ進んでベスト4になりました。関東大会では悔しい思いをしましたが。このインターハイ予選で東京でもできる三年生の試合は泣いても笑っても最後です。関東大会で得た悔しさをバネにして、インターハイに出場できるように、精一杯頑張っていきます。関東大会を開催する上で運営してくださった方や支えてくださった方、応援してくださいました。インターハイ予選も頑張りますので、応援よろしくお願いします。

女子ハンドボール部
「関東大会を終えて」

高校三年五組 小笹 ひなた

この度は、関東大会出場の際に壮行会を開いていただきました。ありがとうございました。たくさん応援をもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは、六月四日から栃木県で開催された関東大会に出場させていただきました。明星高校女子ハンドボール部は十大会連続十五回目の出場ですが、昨年はコロナウイルスの影響で開催されなかったのが二年ぶりの出場となりました。

今年は無観客での試合となりましたが、出発する前に先生方や友達からたくさん応援をいただき、会場に実際に応援はいなくても心で感じることができました。ですが、1試合目から明星らしい雰囲気を感じることができず、結果は2回戦敗退となつてしまいました。まだまだメンタル面でもフィジカル面でも成長していく必要があると身に染みて感じるようになりました。インターハイ予選に向けてのさまざまな課題が浮き彫りになったので、この経験を次のインターハイ予選に活かせるようにこれからも日々精進していきたいと思えます。今回は悔しい結果に終わってしまいましたが、このような状況の中試合ができることに日々感謝して、インターハイ予選では悔しさをバネに自分たちの力を一杯発揮し必ず東京制覇します。これからも応援よろしくお願いします。

陸上部「関東大会 競歩競技」

高校三年四組 望月 直人

私は陸上部の5000m競歩という種目で関東大会に出場します。陸上部全体で「関東大会出場そしてインターハイ入賞」という目標を掲げ努力してきたので関東大会に出場できてとても嬉しいです。私が関東大会に出るのは初めてではなく去年の秋にも出場しています。しかし去年

の関東大会では思い通りに歩けずいい結果が残せなかったののでその後悔を胸にもう一度関東大会にでたいという思いで練習してきました。自分たちの代は高校二年生の時はほとんどリモートで部活動ができなかったのでも自主練という形で練習をしなればなりません。なかなか自分一人で練習をするということは孤独でつらい時期もありましたが「ここでやらないとダメだ」という気持ちを持ち、練習に励んできました。コロナなどで大会すらできるかわからない中、練習するのはとても辛かったです。練習するメンバークラスなどが頑張っていると自分もやらないと、と強く感じるようになりました。正直私は厳しい練習をするために陸上部に入ったわけではなく運動部に入りたいというだけで陸上部に入りました。最初は長距離だったのですが途中から競歩になり練習し始めました。競歩という競技はかわった歩き方で周りの人から真似され、バカにされとても悔しかったのですが、今思うとそういう人たちのおかげでここまでできていると思います。私はバカにされたのが悔しくてどうしたら笑われないかと考えたところ結果を出せばいいという答えに辿り着きました。そこから私は結果を出し、みんなに応援されるような選手になりたいと思うようになりました。自分にとってこの関東大会は部活動の集大成であり笑われたい悔しい思いの中頑張ってきた努力を一杯発揮する場だと思えます。もう引退してしまつた部活のメンバークラス、先輩そしてマネージャー、全ての人の思いを胸に頑張つて

泣き笑いのエピソード

体育祭運営委員 高校三年七組 横山 開

きますので応援よろしくお願いします。

僕は、体育祭運営委員として今年体育祭に参加しました。

三月に組織され、始まった体育祭準備。そこから当日までのエピソードは、まさに泣き笑いのエピソードでした。

僕たち体育祭運営委員会は、「当日の運営」、「当日までの準備」、「各係り・実行委員会への説明」を主軸に行っていました。例にするのであれば、「国会」のような組織です。審議し、みんなが楽しめる、思い出に残るようなものを作り出す。これが体育祭運営委員会の発足理念だと僕は、思います。当初は、3学年でやるために、色々な準備に当たって来ました。大きく言う競技マニユアルの作成、当日のプログラム構成などです。

競技マニユアルの作成は、本当に大変でした。A4の用紙両面に一競技ずつ、「入場の体系」、「競技中の内容・位置」、「退場の仕方」まで事細かく書きました。

僕たちは、まず最初に競技の内容について考えました。全生徒が楽しめるように記憶に残る競技を作りました。プログラム構成では、2つ3つ先のことを常に考えて各学年・クラスの動きを頭で構築しプログラムを作りました。このマニユアルも色々なエピソードがあって最初の期日に間に合わなくて体育科の先生に怒られてしまったり、マニユアル完成許可が出るまで各競技10回位先生

にマニユアルを提出しました。でも、全てのマニユアルが完成した時は、とても達成感がありました。

四月下旬、体育祭が延長すると決まった時、僕は、自身の気持ちで体育祭まで保てるか不安でした。ですが、色々決めていく中で、自分が引張って行かなければならないと思ひ、より一層気合を入れて準備に取り掛かりました。

また、六月初旬学年ごとになると各学年ごとに開催することが、決まりました。そこから、僕は、3年生の運営委員会のみんなと共に土台を立て直しました。ここでも色々なエピソードがあります。先生と僕の意見が食い違つてほぼ毎日喧嘩をしたり、競技案をまた一から考え直したり、プログラムを考え直したりと、まさに号泣でした。途中で投げ出したいと何回も思いました。実際、全てまとまった形になったのは、体育祭前日でした。

迎えた当日、朝起きて、まず最初に窓から外を見ました。天気予報で雨が心配されていたのに、晴れだったのです。本当に「神様に感謝」と思いました。運営委員会は、当日1時間前に、集合して、ライン引き、整列準備、当日の動きの最終確認を行いました。ここで、僕の詰めの甘さが発覚してくるのです。体系を動かすときの順序が全員わからない事や、グラウンド配置が全く違うことなど、本当に焦りました。

開会式、グダグダの五分遅れスタートから始まった高三体育祭、十四クラス全員が一斉に走る「明星」、一回もやったことのない「十四クラス対抗リレー」。これは前代未聞でした。



高校三年クラス対抗リレー

外側八コースを理系とMGSクラスが走り、内側六レーンを文系が走るということです。当日、走っていない人の待機場所のスペースが

なかったり、キチンとゴールの判別ができなかったりとミスが出てきてしまいました。でも、最後まで全員がなんとか走り終わり、みんなが笑い顔になっているところを見て「やってよかったんだな」と心から思いました。

次にあったのが8の字飛び、この競技は、クラス全員がみんな協力して、各クラス飛んでいました。グラウンド全体がよい空気に包まれました。

三競技目、「ドッチボール」この競技は、なんと本番の二週間前に案が上がつて実行しました。これも。当日、波乱のエピソードがあつて「審判のいないコート」が出てきてしまつたり、「コート」の位置が違つたりと予想外のことが立て続けに起こつてしまいました。ですが、各コートに目をやるとみんなの笑い声と笑顔が溢れていました。

四競技目「世界に一つだけの花」。ダンスリーダーを中心に各々が、高校2年生の時から頑張つて練習してきた成果が存分に吹き出したと思います。

僕は、この体育祭から沢山のものを

学びました。組織をまとめる難しさ、準備して物事を伝え発信する度胸、準備の大切さや先生たちとのコミュニケーションの大切さなど、ここに書ききれないくらい沢山のものを学びました。それは、普段机に向き合つて学ぶもの以上に社会の常識や生かせるものまさに「生きる上で必要なこと」思考力・判断力・適応力を学べたと確信しています。

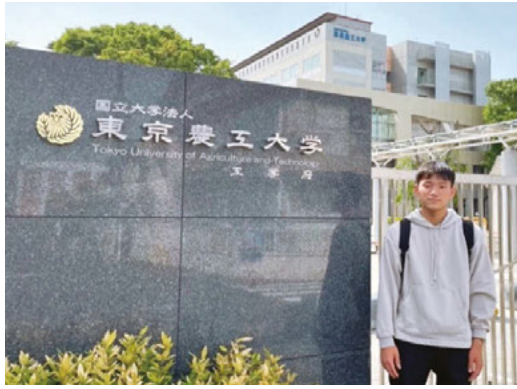
今回、3学年に分かれてしまいましたが、各学年運営委員・実行委員並びに学年推進委員会の力によりここまで漕ぎ着けました。本当にありがとうございます。各学年、良い形・良い雰囲気にも包まれたと聞きまいた。これからの学校生活をより良いものにして欲しいと願います。相手がどんな立場の間でも自分の意見を伝え、時には、討論するそれが、良い組織、良いイベントを作る必須な事項だと思ひます。先程も書きました。僕は今先生や他の運営委員と意見がぶつかり討論を何回もしました。しかしこのようにして最後はみんなが笑顔になりました。これが、体育祭に


あった泣き笑いのエピソードです。



高校三年集団演技

【自己紹介・大学生生活の現状】
初めまして。東京農工大学工学部・機械システム工学科の岡村謙です。中学生・高校生の皆さんが通っている明星中学校・高等学校の横に





先輩便り

**理系大学生が考える、
「なぜ、読書は重要で、大事なのか」**

東京農工大学工学部機械システム工学科2年
岡村 謙
(2021年3月卒業)



も、東京農工大学の農学部があります。一方の工学部は小金井市にあり、僕は小金井のキャンパスに通っています。ところで、「機械システム工学科」の「機械」という名前、かなりざっくりとした名前であるために、何を学ぶのだろうと思う方もいるかもしれません。これは「自動車」や「飛行機」などの乗り物や、「ロボット」や「人工知能」などのものづくりについて、その構造を学ぶというイメージを持ってもらえるかと分かりますか？

この文章を読んでいる方の中で、これらのものに興味がある人がいたら、ぜひ農工大（のウェブサイト）へ遊びに来てください、お待ちしております。下の画像は農工大ホームページより…注一）

さて、昨年の二〇二〇年の年明けから現在まで猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で、入学当初、大学の授業はほとんどオンラインで行われました。朝から夕方までパソコンの前で授業を受ける毎日、若干、気が滅入ってしまうような時期もありました。一方で、オンラインツールの普及によって自由に過ごせる時間が生まれ、なおかつ物理的な距離を問わずに色々な人と交流できるようになったため、必ずしも悪いことばかりではなかったのか

などと思います。最近は一部の授業で対面式が復活したものの、オンライン授業との併用となっております。また対面でのサークル活動も規制されているため、元通りとなるにはまだまだ時間がかかりそうです。そのような状況の中でも、自分のできることを全うするように頑張ります。今回は、「入試・大学・社会で大事な読書の楽しみ方」についてお伝えしたいと思います。

「大学や世間では〇〇が評価対象。だから読書って大事。」

中学生・高校生の時、僕は「例え理系に進んだとしても、論理力（ここでは他人の主張を正しく読み取り、自分の主張を正確に伝える力）は大事」と度々聞きました。皆さんもそうではないでしょうか。論理は高校や大学入試科目の一つである国語にとって大事な要素です。推薦入試を一つ取り上げてみても、小論文や面接では、どれだけ簡潔に、かつ正確に自分の意見を主張できるかわれるため、ここでもこの力は必要になります。しかし、この「論理力」は受験に限ったことではなく、むしろ、大学入学後により一層、求められると僕は感じます。僕の所属している学科では数学や理科の座学に加えて、実験や実習も沢山行います。

（これは理系であれば殆どの学科が同じだと思います。）さて、実験や実習の成績はどうやって決まるのでしょうか。実際、その実験や実習の出来具合も成績に含まれることもあります。が、殆どの場合はその結果をまとめた、レポートの出来具合が評価対象になります。この「レポートの出来具合」というのは、実験データからどのようなことを読み取れるか、どんなことが言えるかを、それほど論理的に正しく書けるかということになります。つまり、実験で得られた情報を基に、自分の主張をわかりやすくレポートにまとめることができるか。その評価が決まります。さらに学年が上がると、自分が行った実験や研究についてまとめた論文を書きまします。一般に学者や研究者は、彼らが発表する論文によって評価されますが、いくら素晴らしい研究をしたとしても、正確な論文を書くことができない場合、その研究者は全く評価されません。そのためここでも論理力は大切となります。



一方、一般企業で働くようになってからどうでしょうか。会社のプロジェクトを始めるときには「企画書」を書き、または「プレゼンテーション」をすることもあるかもしれません。さらにプロジェクトや企画が終了すると、「報告書」を書きます。これらの書類の内容やその適切さで書いた人の評価が決まるのが一般的です。このように、様々な場面で「論理力」が必要になるということが分かります。ではその力を鍛えるには、何が効果的なのか。僕はやはり読書（特に評論）が最適だと思います。多くの本にはその著者の主張やその根拠がしっかりと論理的に組み立てられているため、最も適切な見本であると思います。以上のことをまとめると、「大学や世間では 論理的正しさ が評価対象。だから読書は大事」ということになります。

【読書に親しむために〇を活用】

しかし、皆さんの中には「読書が苦手」という方もいると思います。僕も読書は苦手でした。書店や図書室に行つて本をバラバラとめくっただけでも、難しそうであれば、すぐ本を閉じてしまい、少し読んでみようと、何ページか読み進めてみてもすぐ眠くなつてしまいます。同じような経験をした方もいるのではないのでしょうか。そのため、僕はいきなり書店に行つて本を探すのではなく、まずユーチューブで本の紹介動画から読む書籍を探すようにしています。ここ数年で様々なジャンルの動画を見られるようになったユーチューブですが、色々な本の内容を十分から二十分程にまとめた動画を発信しているユーチューバーも沢山います。（芸人の中田敦彦さんが、様々な書籍やニュースを面白く楽しく話す「中田敦彦のYouTube大学」は、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。）そのような、本の解説動画を見て、中でも興味がそそられた本を実際に購入して読むようにしています。このように形をとることで、まず自分の興味にあった本を簡単に探せること、そしてなによりも、解説動画で簡単に本の全体像を把握できているため、読みやすくなるというメリットが挙げられます。その他にもネット上で書かれている読書のコツや楽しみ方を参考にすることも有効な手であると思います。また、中学生・高校生である皆さんの身近にいる明星の先生も、本を沢山読んでいますので、担任の先生に聞いてみる、これも一つの方法かもしれません。

【おすすめの本】

読書の楽しみ方を紹介したので、次に僕のおすすめの本を、二冊紹介します。まず一つ目は「世界一『考えさせられる』入試問題」（著：ジョン・フアンドン）です。突然ですが、次の質問を見てください。

「(一) 人はいつ死んだことになりましたか。(二) 自分がカリフォルニアにいない場合、カリフォルニアが存在していることをどのように知りますか。(三) 誠実は法律のどこにおさまるでしょうか。」(注四)

いかがでしょうか。質問の内容はかなり単純。しかし、答えるにはかなり頭を使う問題ばかりです。これらの問題は本に掲載されている、オックスフォード大学やケンブリッジ大学で実際に出题された問題です。この本ではその他にも様々な問題と、それに対する著者の回答・考えを紹介することで、読者に頭を使ってもらうことを目的としています。しかし、問題を読みながら自分なりの答えを考えることで、なぜか感覚で気軽に楽しむこともできます。どんな方でも、その方にあった楽しみ方で楽しめると思ったので、おすすめの本として紹介しました。なお僕自身はこの本のあまりの面白さ



に、一週間ほどは通学中ずっと読んでいるほど、夢中になりました。

二つ目は「Think CIVILITY」(タリスティーン・ボリス著・注三)です。Civility「丁寧、礼儀正しさ」という言葉に表される通り、この本は「礼儀正しさ」の大事さを説いている本です。しかし、「礼儀正しくすることが良いのは当たり前ではないか。」と思うかもしれませんが、この本では「礼儀正しくするだけで、その人自身や所属する組織に対して様々な利益をもたらされる」ということを具体的なデータを用いて説明しています。こちらも本から、いくつかの例を挙げようと思います。アメリカ心理学会(A.P.A.)の調査によると、職場でのストレスによるアメリカ経済の損失は年間五千億ドル、なんと約五十四兆円にのぼると言われています。日本の令和二年度の国家予算が百二兆円なので、どれだけ莫大な費用であるかが分かると思います。さらには職場で発生する事故の六割から八割がストレスによるものであり、アメリカ人の通院の八割以上が職場のストレスであることもその調査で分かっています。

(注五) これらの事例



を見ても、どれほど礼儀正しいことが大事なかが分かります。小学生から大学生の間でも特に中学・高校では、礼儀について沢山教えられる(もしかしたら注意される)ことが多いかと思えます。だから「礼儀正しくしなければならぬのはどうしてなのか、なぜなのか。」と疑問を持つ方もいるかもしれません。この本は礼儀正しさに関するデータを提示しながらより論理的に説明しているので、そのような疑問への解決の手助けになればいいなと思います。

【明星の図書館を活用しよう!】

皆さんご存知の通り、明星中学校・高等学校には素敵な図書館が併設されていますが、利用しないともったいないほど素晴らしい図書館なのです。学校のホームページに記載の通り、この図書館には和書と洋書合わせて、約八万五千冊の蔵書があります。全国学校図書館協議会の「二〇二〇年度の学校図書館調査」によると、二〇二〇年の中学校平均蔵書数は一一二五九冊、高等学校平均蔵書数二七七三四冊であり、これを考えると明星の図書館には非常に多い数の蔵書があることがわかります。さらに、中高六年間を通して同じ図書館を利用できることを考えてみて、これはかなりのアドバンテージではないでしょうか。また約二万冊

の洋書の多さとそのバラエティも図書館の特徴の一つといえます。読書の重要性は先述しましたが、洋書に関しては、和書と比較するとより論理がはつきりしており、なおかつ英語で書かれているので、英語の勉強にも最適です。図書館には、多様な英語のレベルの洋書が準備されているので、各々に合ったレベルで学べることも魅力の一つです。

また、図書館で閉館時間まで自習することで自然と勉強のオンとオフを切り替えることもできます。自宅でなかなか集中して勉強できない僕も、そこではかなりの時間、勉強に集中できました。勉強に疲れたら気分転換として図書館の中を歩き、面白そうな本を見つけたらそのまま本を借りることもできたので、重宝していました。図書館は色々な使い方ができると思うので、是非オリジナルの利用方法を生み出してみてください。

以上、僕が思う読書のメリットや楽しみ方・おすすめの本などについて紹介しました。ほんの少しですが、皆さんのお役に立てれば幸いです。今回の「先輩便り」は東京農工大の岡村謙がお贈りしました。皆さんとまたどこかでお会いできることを楽しみにしております。最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

《引用・参考文献》

- 注一 画像：東京農工大学ホームページ https://www.tuac.jp/outline/disclosure/location_shooting/ 2021/05/04 入手
- 注二 画像：Amazon.co.jp. <https://www.amazon.co.jp/dp/B079MB18JW1> 2021/05/04 入手
- 注三 画像：Amazon.co.jp. <https://www.amazon.co.jp/dp/4492046496> 2021/05/05 入手
- 注四 ジョンファードン、世界「考えさせられる」入試問題 河出書房新書、二〇一七年、二八二頁
- 注五 クリストティーン・ボリス、Think CIVILITY、東洋経済新報社、二〇一九年、三四四頁

府中キャンパスを尋ねて

五月初旬、憩いの広場西北の一隅に、今年もまた棟(あふち)が薄紫色の花をつけました。写真は、南棟校舎二階から撮影したのですが、三階からも窓枠を縁縁のようにして楽しむことができます。

棟は落葉高木で、本州から九州にかけて広く分布し、高さは十五メートルほどにもなります。

根津権現には、近くに屋敷を構えていた太田道

灌が植えたという棟の林があったと『江戸名所花暦』に紹介されています。我が国最古の歌集『万葉集』にも「妹が見し棟の花は散りぬべしわが泣く涙いまだ干なくに」(山上憶良)とありますし、かの『枕草子』にも「木のさま憎げなれど、棟の花いとをかし」と賞賛されています。

棟は「梅檀」と言われ、古来、「梅檀は双葉より芳し」という諺(初出は中世の『保元物語』「こうばし」と読む)で知られていますが、この「梅檀」は「棟」のことではなく、香木の白檀のことです。

校舎の窓から遠望すると、この憩いの広場には、少なくとも二本の棟があるようです。

この五月十日に出版された『FUCHU』(かぶらぎみなこ・遊泳舎)にも明星学苑の魅力の一つとして中高の図書館のことがイラスト入りで紹介されていますが、創立百周年を前に、府中キャンパスに残された貴重な自然・歴史に眼を向けてみるのもいいのではないのでしょうか。

